

釣塔大学新聞

学長が附属病院に入院

学長はマルタ熱に感染か

釣塔大学附属病院に入院していることが発表されたアルフレード・ガッチャピン学長だが、入院は釣りではなく事実であることが明らかになった。

学長はインフルエンザと思われていたが、血液検査によりインフルエンザではなくマルタ熱に感染していたということが判明した。現在は発熱、精巣炎などの症状が

みられているという。マルタ熱はブルセラ症とも呼ばれ、日本では感染症法によって第四類感染症に指定されている、人獣共通感染症である。病気が治るまでは、学長職は副学長の福河久長氏が代行を務めることとなった。

感染原因は定かではないが、他に感染者がいないことや学長の性癖を考えて、学長が牛や犬などの動物と性的

フィッシング研究所が警鐘

フィッシング研究所が近年増加しているフィッシング詐欺に関して批判する公式声明を発表した。『釣って楽しい、釣られて楽しい』が、本来の釣りのあるべき姿である。釣りとはい、金儲けの手段ではないのです。我々フィッシング研究学会は、フィッシング詐欺には断固として反対する意向である。』と話した。釣塔大学からもフィッシング詐欺に対しては「釣りに対しては「釣りに対しては」ではなく詐欺だ」と反対する方針であることが示されている。

露草留紬流

塔大には百近いサークルがあり、少林寺拳法部などという本格的なものから空を飛ぶなどの夢溢れるものまで様々である。その数多くのサークルの中で、長年対立関係にある、きのこの里同好会とたけのこの山クラブ。俗に言うきのこのたけのこの論争であるが、両派とも一向に譲らず現在は冷戦状態であった。しかし、両サークル部長の会談によりこの戦争に終止符が打たれることとなったのだ。塔大を学生を対象に今年度末までのこのたけのこの投票が行われる。単純にどっち派かという設問に対しての投票であり、是非参加してほしい。

レポート用紙、模造紙他 多様な特殊紙 格安販売 伊花草製紙

接触をしたのではないかと噂もたつている。学長以外からの感染報告はないため、感染は学長のみにとどまっていると思われる。ウイルス総合研究所は、精密検査をし、感染ルートの特定に努めている。

二十四日午後二時過ぎ、七号館四階の講義室6で軍事学部の兵器科学の講義中に小規模な爆発がおこり、担当の菊原伸二教授が腕の骨を折るけがをした。なお、講義

軍事学部講義室で小規模な爆発

を受けていた学生にけがはなかった。この爆発は砲弾の落下によるもので、炸薬に誘爆はしなかったためこの規模の爆発で済んだものと思われる。安全装置は作動しな

かったものとみられ、なぜ作動しなかったのかについては調査中である。菊原教授は「砲弾を実物を使って説明していたときに、誤って落下させてしまった。

学生諸君にけががなくてよかった。」と話している。また、爆発物等の説明をする際にはレプリカを用いるようにと指導がなされていたにもかかわらず、実物を使

っていたことについて、菊原教授は「レプリカを入手するのが面倒くさかったので実物を使ってしまった。まさかこんな事故が起きると思わなかった。」と話している。

大学側は菊原教授の処分について検討中であると発表した。一方で、このような事故の再発防止に努めるとともに、教授への指導を徹底することを明らかにした。

